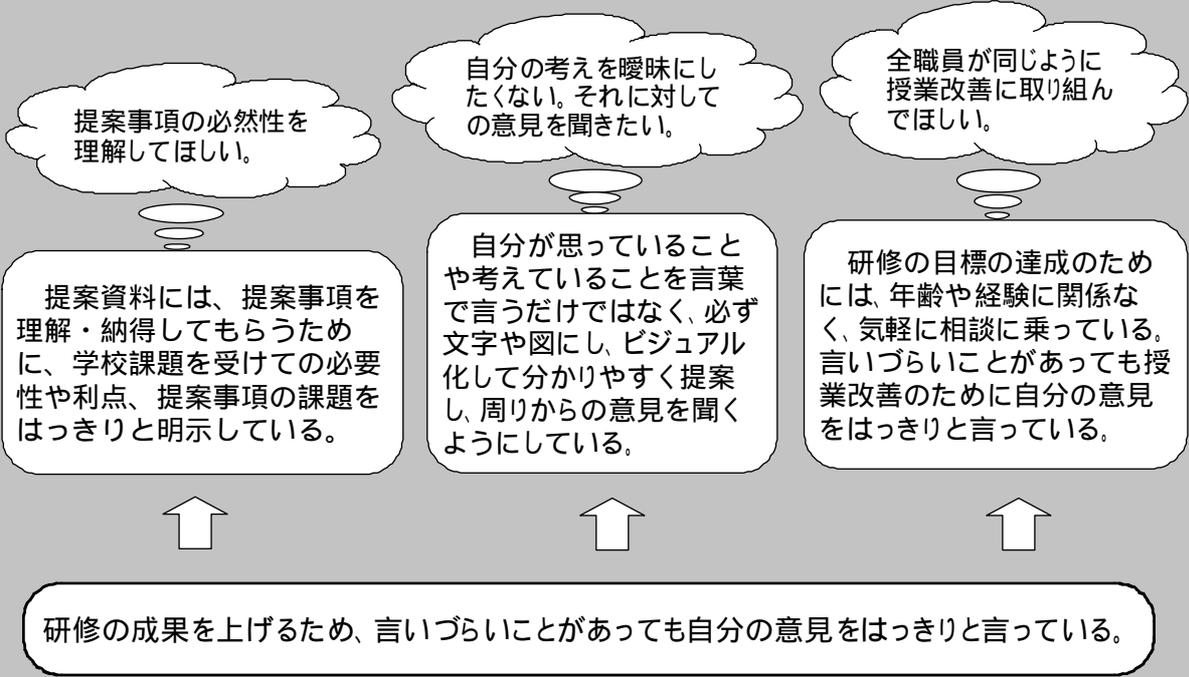
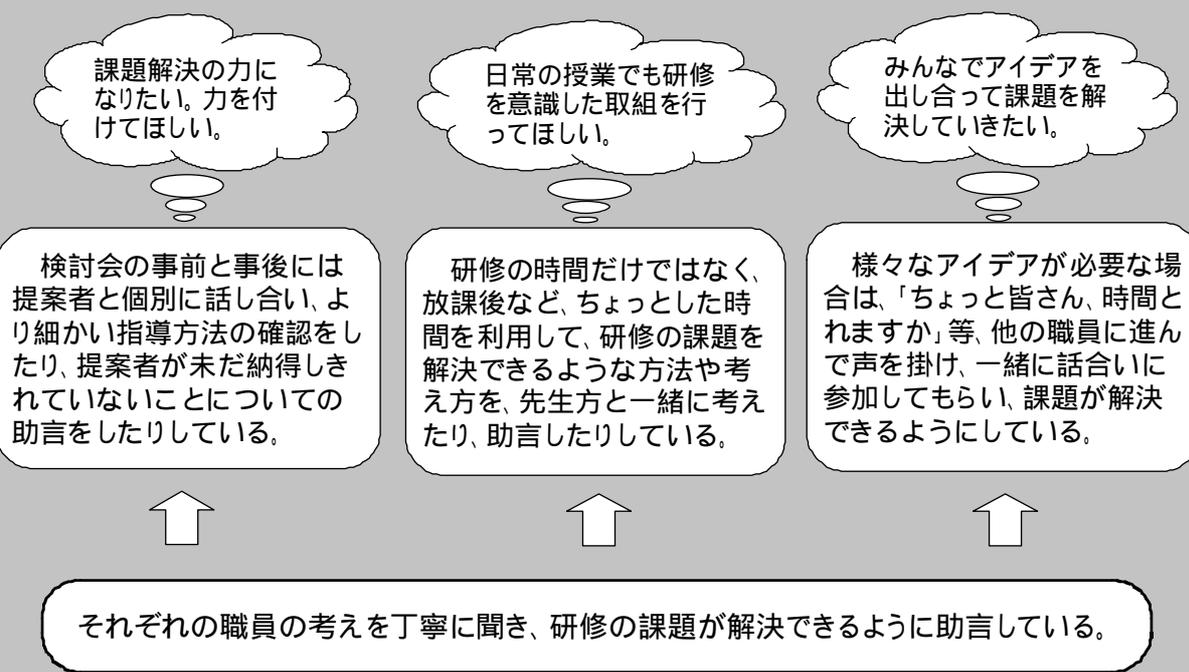


1 【 研修成果を上げるための提案や助言 】



2 【 研修課題解決のための個々の職員への助言や言葉掛け 】





3 【 より良い成果を上げるための授業研究会の在り方の工夫 】

同じ目標に向かって、共通の話題の中で話し合いが深まるようにしたい。

授業研究会ではいつでも共通の視点で話し合いができるように、話し合った内容を黒板やホワイトボードに、随時板書しながら進めている。

職員が自分自身を振り返り、次の行動を具体的に決めてほしい。

授業者本人の「気付き」を大切にするために、授業研究会に授業リフレクションを取り入れている。

学年や部会などのチームとしての意見を尊重し、生かしたい。

学年や部会での話し合いは、時間を決めて必ず結論まで出してもらうようになっている。また、話し合った内容を必ず全体の場で報告してもらっている。

授業研究会の在り方を工夫し、より良い成果が上がるように立案している。

4 【 体験を通して身に付く研修の計画・実施 】

全員が同じ立場を経験し、皆で研修を進めたい。

1年に1回以上は、全員が全職員参観もしくは、学年やブロック参観の代表授業を経験できるよう計画し、実施している。

進んで問題点に気付き、改善の意識をもってほしい。

年間を通して、一人一課題で、授業改善が行えるように計画し、実施している。また、学年やブロック、部会が自主的に研修し高め合える集団になるように、こまめにチーフに言葉掛けをしている。

本人から自主的に改善意識をもってほしい。

授業検討会に授業リフレクションを取り入れ、授業者本人の「気付き」を引き出している。また、進行役のプロンプターや板書係は様々な職員が体験できるようにしている。

自ら進んで、課題を解決していく力を付けていくために、体験を通して身に付く研修を計画している。

教頭

教務主任

学年主任

研修主任